

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第57回放送の概要 (2012年11月24日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬 悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

自分の母校じゃないけれど、地元の高校をつい応援してしまう。赤い羽根共同募金はそんな気持ちに似ています。自分の街を良くする仕組み、紅い羽根。

(CM) エキストラ珈琲は、神戸で初めてのコーヒー豆焙煎問屋として、大正12年に誕生。その伝統ある個性的な存在は、高級コーヒーを厳選し、評価に値する味を提供する店として、広く皆様に愛されています。大河ドラマ「平清盛」もいよいよ終盤、清盛茶屋、能福時、真光寺へ是非お越しください。本日はエキストラ珈琲様 (電話 078-671-0135) のご協力を頂きました。

1. オープニング

明日は神戸マラソン (KOBE MARATHON 2012 1125) です。参加資格はフルマラソンの場合は7時間以内、クォーターで1.5時間以内で完走となっている。明日は寒いのでダウンコートを着用していった場合は、寄付することになっているようです。

2. ゲストコーナー (1): 兵庫高校校長 石井 稔さん (60 陽会)

石井先生は小部小学校、山田中学、兵庫高校、京都大学理学部卒業。クラブ活動は中学校から剣道をしてきた。今は回数は少ないが防具をつけ、兵庫高校剣道部の生徒と練習している。今剣道部は部員が少ないが、神戸高校との定期戦では勝った。部員は女子2人、男子4人、女子マネージャーで全て2年生。試合は通常5人であるが、ローカルルールで女子2人、男子4人の6人戦とした。先生は大学時代に3段をとった。普段は出来るだけ歩くようにしている。

高校時代の思い出のうち最も印象深いのは修学旅行である。修学旅行の出発日が剣道部の新人戦の日と重なってしまった。他の生徒は朝、船で九州に出発することになっていたのに、剣道部だけ夜行列車で追いかける行程にしてもらうよう学年主任の先生に交渉に行った。その時先生に「優勝するのか」と言われ、出来ませんとは言えないので「優勝します」と答えた。結果は男女共、県大会3位になった。入賞したので表彰式に出なければいけない。神戸駅出発の時間に間に合わない恐れがあったので、今度は大会本部と交渉した。選手が皆修学旅行に行くので表彰式には1年生を残すことで了解を得た。列車の出発直前に1年生が表彰状を届けてくれた。当時の先生は生徒の注文をよく聞いてくれた。楽しい高校生活であった。高校教師を選んだのは高校時代に伸び伸びと過ごせたことが一因である。当時は今にくらべ交渉力のある生徒が多かったように思う。

教師になってから2校目が兵庫高校で、昭和62年から6年間数学を教えていた。その後教育委員会に出て、行政に17年間勤務した。最後の2年間は知事部局の但馬県民局の但馬文教府と但馬生活科学センターに勤務した。但馬は「ようきんさった」と言ってもらえるいい所である。文教府はいわゆる文化会館で、いろんな文化団体のお世話、高齢者大学の運営、小中学生の文集など楽しく仕事することが出来た。生活科学センターはいわゆる消費者センターで、消費者相談を受け付けていた。当時は国の方針が変わり消費者庁が出来た時で、消費者行政が様変わりした。スタッフは少なかったがとても優秀で、消費生活相談を但馬全体でどのようにしていくかについて考えた。各市や町の相談員が新たに任用されたので、県のセンターを改装し、皆を1か所に集め一緒に相談を受け付け、解決していくという体制づくりに奔走した。任期を終えた直後の4月に、新組織である但馬消費者ホットラインが発足した。通常は県と市町の相談員が一緒にやることはなく、これは全国でも但馬だけの取組である。但馬でも地域の人やスタッフに恵まれ楽しく仕事できた。

3. ミュージックコーナ：月のあかり（桑野正博）

8月7日に59歳の誕生日を迎え、10月26日に亡くなった桑野正博さんは、神戸が生んだ、大阪で活躍された方で、名曲「月のあかり」をお届けします。すごいぼんぼんで生まれ育ち、好きな事をし、長い闘病生活で入院費が大変と言う噂も流れた。没後のCD「MASAYAN」からお送りします。

4. ゲストコーナ（2）兵庫高校校長 石井 稔さん

教育委員会は本庁の高校教育課に10年、教育研修所に3年、北播磨教育事務所に2年、知事部局への出向2年間、合わせて17年間学校を離れて勤務した。高校教育の中身に関することはほぼ一通り経験した。特に印象深いのは、自分の今の仕事に一番影響を与えているが、震災時の高校入試の仕事で、当時副担当として入学試験の運営に関する仕事をしていた。震災直後でそれまでと同じように試験をするのは難しかった。例えば、兵庫高校は避難所になっており学校では試験が出来なかったり、避難している生徒、特に他府県に避難している生徒が、志望する学校で受験するのが困難であったりといった多くの問題があった。そのような状況の中で、ある人から次のように言われた。「あなたのやっている仕事は突き詰めて言えば、中学3年生は何処かの高校に行かなければならない、そのため入学試験を受けなければならぬ。だから、被災した生徒がちゃんと受験できるようにする。そのことに尽きるのではないか。」入試では普段は厳正公正、公平さ、厳密さを追求するが、このような時は、被災した生徒が安心してチャレンジ出来るようにしてあげるのが一番大事である。すなわち志願先の高校で受験できない生徒にはどこかで受験できるようにしてあげることが重要で、そのためにどのような事が可能か、出来る範囲でやればよいと考えた。いろんな選択肢の中でどれが効率が良いか、受験生にはどうかなどのいろんな条件を考えてやって行けば良いという経験をした。その経験がその後の仕事をやっていく中で生きている。この仕事は何のためにやるのかを常に考えて、そこからどうするのかと考えて行く間違って大きくはずれないことがわかった。役所の仕事は前例に従うが、震災では前例通りには仕事は出来ず、原点に戻る必要がある。但馬の消費者相談の場合でも、どのような形でやるのが一番いいのから考えて、県、市、町と一緒にやることで皆で相談することが出来、いい解決策を見つけることが出来ることになる。これが震災時に得た貴重な経験である。

研修所勤務になった1年目、高校の先生を1週間体験型企業研修に派遣するプログラムを担当した。先生は学校から世の中を見てしまうが、そうではなく世の中あるいは社会の側から見る事が出来るように計画したものである。約300名の先生を企業に派遣したが、本当に全員派遣できるのか、その運営をどのようにするのかと、とにかく大変であった。高校教育研修課の課長として8名の指導主事に、とにかく研修先の企業に行けと言った、そうしたら本当に皆が必死になって現場を回り、状況把握に努めてくれ、何とかプログラムを実施することが出来た。初めてのことで色々課題は出てきたが、研修を行うこと自体についてではなく、具体的やり方についてや、先生からは夏休みの予定を急に変更させられたとか、企業からはどのようにやればいいのかといったものであった。1年目にうまくいかなかったところを2年目は改善することにし、研修が一日終われば必ず振り返りの会を開き、振り返りシートに従

い一日感じたことを記録するようにした。感じたことを共有することにより、新しいことが生まれる。このような改善をしたことや、研修を受ける先生が事前準備することで2年目の不満は減少した。

兵庫高校の特徴である総合科学類型について、校長として着任する以前は、はっきりした印象は持っていなかった。総合科学類型は3年前に始まり、今年で3学年が揃った。就任直後の4月半ばに未来総合シンポジウムが開催された。2, 3年生が1年間の成果を発表し、基調講演、パネルディスカッションが行われた。生徒の発表も良かったが、一番感じたのは、発表後のパネルディスカッションで、基調講演を行った阪大の先生と1, 2, 3年生からそれぞれ2人ずつがパネリストになった。通常は先生がコーディネーターになりまとめていくが、その時は3年生に司会を任せた。そのことを担当の先生から事前に聞いた時は、うまくいくかどうかわかりませんと言っていた。生徒は前もって用意した原稿を読むのではなく、基調講演の内容、生徒たちの発言内容を受けて、自分が感じたこと、考えたことを整理しながら話していた。これは凄いなと感じた。

物事は最初から正解があるのではなく、調べたり、聞いたりしてそれを受けて考える。考えて何かを整理し、まとめて発表したり文章化する。自分が調べた条件の中で、どのような事が言えるのか、出来るのか、どうすればいいのかを考えながらやっていく。正解のない問題にどう取り組むのか、社会に出てぶつかる問題、大学の研究も同じだが、最初から答えが決まっているものはない。どうしていいかわからない、どうするかはこれから考える、今の状況はどうか、良く調べて、いろんな条件を考え、思い込みではなく、きちっと整理して論理的に考えて案を出し、それがどのような受け入れられ方をするのかということで、フィードバックされる。これからの若い人に本当に必要な力はそのようなことである。総合科学類型の活動は、そのような力を伸ばすのに有効であり、今後もっと力を入れてやっていきたい。これは総合科学類型の生徒だけでなく他のクラスの生徒にも必要なことで、どこで身につけさせるかを考えると学校行事や部活の中で、例えばクラス対抗の出し物をどうするか、文化祭の模擬店をどのようにするかなど考えることにより、正解のない課題に取り組んでいることになる。

そういったことに生徒たちが本気で取り組んでいる、これが兵庫高校の伝統・校風だと思う。

5. なかちゃんの「こぼれた話こぼれなかった話」：兵庫を横断する西国街道

(1) 先月、兵庫高校卒業50周年記念として、49陽会「49歩く会」が中心となって、兵庫県を北の城崎日和山海岸から南の淡路鳴門海峡まで、13区間、19日、243kmを1年かけて縦断ウォーク踏破、母校に帰って来れましたね。

(2) 今、旧街道ウォークは大人気なんです。学術研究も進んでおり、各地のウォーキング・グループや、郷土史ファンたちが地元県内だけとか、街道全部とかに挑戦し、ウェブでも多くのサイトが街道風景やゆかりの石碑や本陣宿場跡など踏破エピソードを報告しています。一度、「西国街道」で検索してみてください。びっくりするくらいのウォーク報告のサイト・ブログが満載です。見ていると、何だかうずうずしてきますよ。

(3) 一番身近な街道は、「西国街道」です。西国街道は、古代には山陽道といわれ、京の都から九州大宰府まで結んだ一番重要な幹線道路だったんです。近世、江戸時代には、大名行列はもちろん、庶民にとっても、江戸時代には街道を辿って名所旧跡をめぐる旅が一大ブームになっていたんです。本当に大変賑わっていました。

(4) 十返舎一九の「東海道中膝栗毛」は旅行記ものとして、フィクションも入っていますが大変人気になりました。ほか、有名なシーボルト、太田蜀山人、長岡藩家老の河井継之助などが西国街道を旅行した日記を残しています。旅行ガイドブックとしての有名な浮世絵シリーズのほか、「摂津名所図絵」「播磨巡覧(めぐり)記」があります。

特に、山口県の萩藩のお殿様が参勤交代で上京するガイドブックに藩お抱えの絵師が書いた「中国行程記」は、西国街道(もちろん兵庫県内も)の城下町、村落、社寺、河川、池、道標、一里塚、本陣、ゆかりの古歌など、沿線を克明に街道絵図として描いています。

(5) 4年前にはNHKが、平城京遷都1300年記念に併せて、古代山陽道といっても近世の西国街

道は大宰府から兵庫・京都を通過して、奈良の平城京朱雀門まで、オリンピックのシンクロナイズドスイミングのメダリスト、原田早穂さんをウォーカーに登用して、街道各地を訪ねて地元の人たちと触れ合いながら踏破する番組が人気でしたね。

(6) 西国街道が人気になっているのは、道路・交通機関が発達していて、どのような歩く区間を設定しても、どの地域からでも公共交通機関（電車、バス）でもマイカーでもアクセスが簡単であること、休憩用の商業施設や救急用の医療機関が多く、歩道の整備もかなり進んでおり、また、昔の街道の道筋には、面影を残す家並み、宿場や本陣の跡、寺院や道標・石碑などがたくさん残っているからです。歩いていても、飽きることはありません。

(7) 兵庫県内と言えば、京都から現在の国道171号（今でも通称は西国街道です）に沿って、伊丹市の下河原、大阪空港の北の端、軍行橋あたりで猪名川を渡って入り、尼崎、西宮、芦屋、神戸、明石、加古川、高砂、姫路、太子、たつの、相生、赤穂を通過して、上郡の国道2号沿いの船坂峠で岡山県に渡ります。基本的には、現在の国道171号と国道2号なんですが、最近の自動車交通のために、広い道を村落郊外に通していますので、昔の集落を辿る旧西国街道は狭くて意外に残されているところも多いのです。

(8) 兵庫県内の西国街道は、約130km。昔の宿場町は、昆陽（伊丹）、西宮（西宮恵比寿さんの東）、兵庫（和田岬）、大蔵谷（明石人丸、市役所近所）、加古川（寺家町商店街）、御着、姫路（二階町商店街）、正條（たつの、揖保川渡る）、片島（たつのの西）、有年（赤穂）などがあります。

それで、基本的には学術踏査でも行われているように、兵庫県内のルートを、11kmから16kmの10区間に分けて歩くのが良いように思います。

関係地図、旅行記、インターネットなど資料は余るほどあります。街道には解説をしていただける観光ボランティアガイドさんも大勢いらっしゃいます。来年のウォーク計画に、いかがでしょう。

6. あこちゃんの地域瓦版

昨年の神戸マラソンの女子の部優勝者は武陽会の上谷聡子さんです（タイムは2時間40分45秒）。神戸武陽会の例会が12月1日（土）に18時～19時30分、神戸文化ホール2階の紫陽花で開催されます。湊中学が解体されるので12月1日、13時～16時に自由見学が出来ます。

7. 来月のゲスト

来月は神戸大学学生震災救援隊にお越し頂きます。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com